

第 9 章

あなたにおすすめの 初級英英辞典は、これだ

■ *Introduction*

みなさんの1冊目の英英辞典となる花嫁・花婿候補のご紹介です。大きな書店であれば店頭で現物を見ることができるかもしれませんが、現実的にはネット販売サイトでご購入ということになりましょうか。

辞書を1語3秒で済ませていないか？

英語学習のために辞書を選ぶときは、**見出し語の数の多さに飛びつかない**でほしいです。

むしろ重視してほしいのは次のような点です。

1. **文字が読みやすいか** (▶5行読み進んでも苦にならないか)
2. **用例がオシャレ、かつ実用的か** (▶飽きずに効率よく学べるか)
3. **基本語の使い方の説明が充実しているか** (▶例えば、get や demand)
4. **多義語の語義展開の説明がわかりやすいか** (▶例えば、fancy や screen)

ところで、あなたは英「和」辞典をどのように活用してきましたか。いまどきの英和辞典は親切が行き届いていて、主要な和訳語は赤字や太字で表示してある。最初の和訳語にパッと飛びついて3秒でページを閉じる、といった勉強法で乗り切ってきたかたは、いざなり英英辞典を使うのはムリです。Google 検索やアプリで和訳語をチラ見して全てを済ませているひと、その習慣のままでは英英辞典は使えません。

まず**英和辞典**(ないしその他の英単語和訳媒体)の**使い方・読み方の習慣を改めるところから始める**ことをおすすめします。

英英辞典で単語を引くと、語釈を読むだけでも10ワード、20ワードの英文と取り組まねばなりません。英和辞典で1語を3秒で済ませる習慣が染みついたひとが、英英辞典に向き合ったとたんに関心をすっかり入れ替えて、別人のように殊勝にも辞書の記述をじっくり読み込む……なんてことは、ありえないわけです。英和辞典で1語を3秒で済ませていたひとが、英英辞典で1語に数十秒から数分

の時間をかけるという、これまで経験したことのない学習リズムに耐えられるわけがないのです。

辞書が紙版である必要はなく、電子辞書でもPCでもスマホでもかまいませんが、**ひいた見出し語の用例・例文を3つ4つ音読**することを、まず基本動作としてやっていただきたいです。(わたしはそうやって語学力を伸ばしてきました!)

make や get の例文を全部音読しろ、みたいな法外なことが言いたいわけではありません。お手軽な英和辞典の用例・例文の3つ4つを読んでいられないようでは、**そもそも読むのに時間と手間のかかる英英辞典に向き合う**ことなんてハナからムリですよと、冷厳なる現実を申し上げているのです。

余談ながら、じっくりと読み込むに値する英和辞典としてわたしがおすすめしたいのは、『スーパー・アンカー英和辞典 第5版 [新装版]』(2021年、学研プラス。同じ第5版でも新装版は字が読みやすい。誤って「新装・小型版」を買わないように!)と『コアレックス英和辞典 第3版』(2018年、旺文社)です。

字のサイズとフォントの読みやすさ

この章の最初に掲げた「辞書の4条件」のイの一番は「文字が読みやすい」こと。このあとの辞書紹介でも、字の読みやすさが重要なチェック項目です。

「あれ? この著者って老眼なの? マンガをスマホで読んじゃう、目のいいわたしたちには関係ないな」

そんな反応をするかたもいるでしょう(小生、老眼ではないですが)。

日本語ネイティブのわれわれが和文に向き合うとき、漢字をいちいちヘンとツクリに分解して読みはしません。「横」や「浜」を「木」「黄」「シ」「兵」に分解して認識することはない。「横浜駅前」という4文字を見れば一発認識です。漢字を拾い読みすることはありませ

ん。だからスマホの小さい文字もすらすら読める。「透明人間」も「高級レトスラン」も、脳が本能的に修正して「にんげん」「れすとらん」と読めてしまう。

では、皆さんが英語に向き合うときはどうでしょう。

わたしの場合、**英語の1単語は漢字1文字のようなもので、単語全体をひと目で認識**しています。既知の単語であるかぎり、いちいちアルファベットに分解して読むことはありません。漢字をいちいちヘンとツクリに分解して読んでいないのと同じです。「横浜駅前」を一発認識するように、英語もあるていどの語群を一発認識しています。だから英語の字幕のスピードにもついていけるし、ニューヨークタイムズのニュース速報をスマホで読む。

もし皆さんがすでにそのレベルに達しているのであれば、いきなり上級辞典レベルの小さな文字の英英辞典を使ってOKです。

もし皆さんの脳が snowman や sunflower を見て無意識のうちにも S-N-OW-M-A-N や S-U-N-FL-OW-ER のように個々のアルファベットに落とし込んでいるなら、それはすなわち漢字をヘンとツクリに分解しながら読んでいたレベルです。英語の辞書を選ぶときにも、文字の読みやすさに十二分に留意する必要があります。

英英辞典への入門は、まずこの1冊から

さて、いよいよ本題。最初にご紹介するのは、これまでの章で頻りに登場した4冊の初級英英辞典です。(価格は本書執筆時の販売サイト上のもので、洋書は為替レートや輸入者の方針によって価格変動します。あくまで参考値とお考えください)

これまでの章で体験いただいたとおり、**この4冊の語釈や用例のレベルは大差ありません**。語釈は1,600～2,000語の基本単語を使って書かれています。見出し語も、高校英語の単語は十二分にカバーしています(難関大学の入試に取り組むには、ワンランク上のものが

望ましい)。イラストも豊富で親しみやすい編集ぶり。この4冊のどれをお買いになっても、後悔されることはないはずです。

① *Oxford Basic American Dictionary for learners of English*

2011年、英国オックスフォード大学出版局、519+25頁、CD-ROMつき、縦23.4cm、約3,100円

4冊のなかで唯一、**米国英語**の英英です。**CD-ROMつき**なので、PCにダウンロードして利用することもできます。

米国英語の辞書ですから発音表記は米国発音のみ。日本の英語教育は文科省検定済教科書からNHK英語講座まで米国英語であり(そしてそれは正しいと思いますが)、それに合致しています。

全ページが多色刷りなので説明イラスト・写真はカラーで。見出し語も、重要語2,000がオレンジ色、その他が青色で表示されるスタイル。色刷りを効果的に使っていて見やすい。親しみやすさは他の辞書に比べて抜きんでいます。文字も読みやすく、通読しようと思えばできてしまうでしょう。

日本の出版社が出す辞書は(一部の大辞典を除き)手のひらサイズでコンパクト。そのサイズに収まっているのが、この後ご紹介する②・③・④です。これに比べるとこの辞書は、縦が3.5センチ突き抜け、横幅も2.5センチ長く、いわば机上演サイズですが、厚さは2.5センチでさほど重くもなくハンディです。

このベーシック・アメリカン英英は、文句のつけどころがありません。自信をもっておすすめします。

いっぽうこの辞書には、ほぼ同内容の英国英語版があります(ただし本文2色刷り、イラスト・写真は単色で、さらにカラー別刷りの図解ページあり)。***Oxford Essential Dictionary for elementary and pre-intermediate learners of English***(第3版、2022年、496+32頁、